

## 「須賀用水」の直道化

秦野 秀明

二〇一七年二月二十三日、「袋山村細沼家文書」（注1）に記載される「八寸塚（はつすんいり）」の所在を、筆者による「聞き取り調査」の結果、「旧・大里村内」の屋号「八寸」の家屋が現存する地点に特定することが出来た。

この地点は、利根川（元荒川）の旧河道である「袋山古川」と「須賀用水」及び「日光道中」が近接する位置となっている。

「八寸塚」は「袋山古川」の悪水（排水）を、「須賀用水」へ排出する施設であり、この「八寸塚」を経由して、「袋山古川」の悪水（排水）の最終的な落とし先の一つであった「旧・花田村内」の「千間堀（現・新方川）」へ排出していたが、その所在は管見の限り長らく「不明」であった。

現在、「旧・袋山村内」を暗渠として西北西より東南東及び東へと流下する「須賀用水」は、

- ①明治三十九年（一九〇六）に測図の「5万分の1地形図」には記載されず
- ②昭和三年（一九二八）に測図の「5万分の1地形図」には記載されている

ゆえに、現在の「須賀用水」の流路は、明治三十九年（一九〇六）から昭和三年（一九二八）までの間に、新たに「直道化」するルートとして開削された事実が推測できる。

この「直道化」のルートは、「袋山古川」の悪水（排水）を、「須賀用水」へ排出する地点であった「八寸塚」跡を経由して、「袋山古川」の悪水（排水）の落とし先の一つであった「須賀用水」へ合流していることから、「直道化」を施工する際のルートとして、敢えて「八寸塚」跡を経由させたと推測できる。

「須賀用水」の流路は、明治三十九年（一九〇六）から昭和三年（一九二八）までの間に、新たに「直道化」したルートとして開削されたと推測したが、開削される以前は、北に凸の形で曲流している「袋山古川」の「左岸側」に沿いながら、「袋山古川」と同様に北に凸の形で曲流していた。

ゆえに、新たに「袋山古川」を横断する形で、「旧袋山村内」を「直道化」するルートとして開削したことから、「元荒川」が宝永三年（一七〇六）または宝永四年（一七〇七）に「直道化」される以前に、「須賀用水」が既に開発、開削されていた事実として推測できる。

また、「旧・袋山村」は、「須賀用水」の開発、開削された当初より「須賀用水」の水を用水として受益できない村であった事実も推測できる。

（注1）竹内 誠・本間 清利（一九七五）

『越谷市史 第一巻 通史上』越谷市 一〇三八〜三九頁

時系列地形図閲覧サイト

「今昔マップ on the web」 ((C)谷 謙二)

<https://ktgis.net/kjmapw/index.html>

より加筆して引用

①上段のデータは

「明治 39 年 (1906) 測量」の

「5 万分の 1 地形図」

「リスト番号 : 76-1-1」「図名 粕壁」

「発行年月日 : 昭和 6 年 (1931) 9 月 30 日」

「作成機関名 : 大日本帝國陸地測量部」

を「1 画面」で表示



時系列地形図閲覧サイト

「今昔マップ on the web」 ((C)谷 謙二)

<https://ktgis.net/kjmapw/index.html>

より加筆して引用

②下段のデータは

「昭和 3 年 (1928) 測量」の

「5 万分の 1 地形図」

「リスト番号 : 76-1-5」「図名 野田」

「発行年月日 : 昭和 21 年 (1946) 10 月 30 日」

「作成機関名 : 内務省地理調査所」

を「1 画面」で表示

